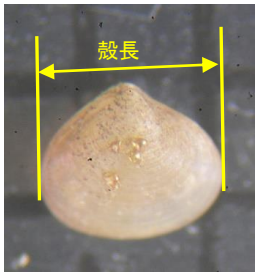
ヤマトシジミの初期成長③　（飼育下の１年後、２年後、３年後）



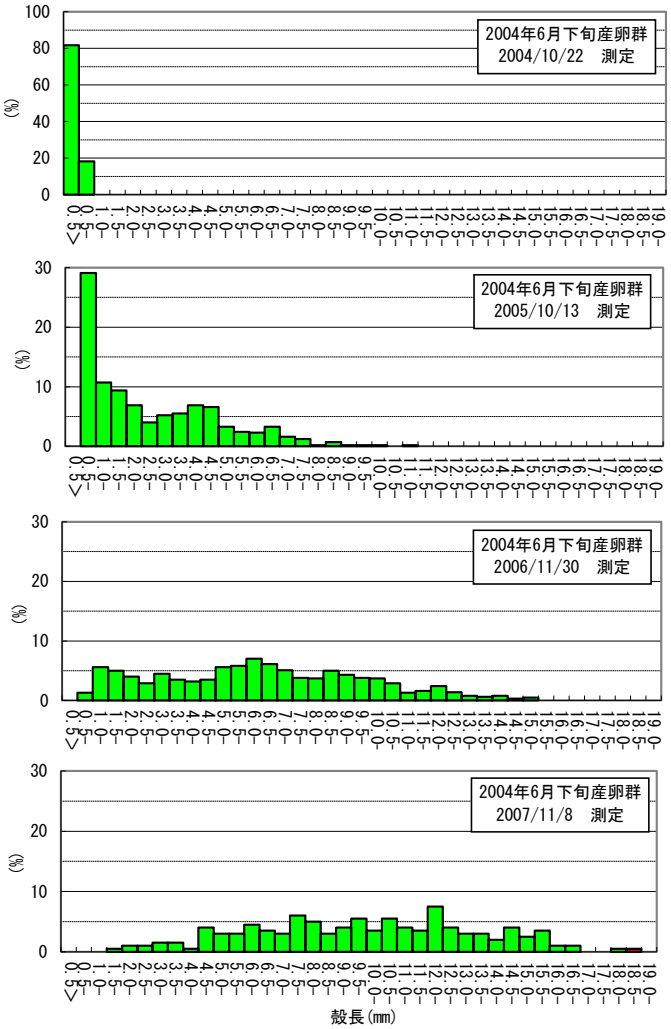
2004 年からコンクリート水槽で種苗生産を始めましたが（ヤマトシジミの初期成長①参照）、それとは別に 2004 年 6 月下旬に産卵させたヤマトシジミの着底稚貝を、砂を敷いたトレイ（24cm×34cm）に入れて、1 トン水槽に収容し、小川原湖湖水をかけ流して飼育しました。この群は 2007 年 11 月まで湖水かけ流しで飼育を続けました。

この間のおよそ 1 年毎の殻長組成を図に示しました。生まれて 4 カ月後の 2004 年 10 月には殻長 0.5mm 未満が 80%で 1.0mm 以上の稚貝はいません。1 年 4 カ月後の 2005 年 10 月には、0.5mm 以上 1.0mm 未満が約 30%で最大 11.4mm と大きさのバラツキが広がりました。

2 年 5 カ月後の 2006 年 11 月にはピークは 6.0mm 以上 6.5mm 未満で 7%、範囲は 0.5mm 以上～15.5mm 未満とバラツキがさらに広がりました。3 年 5 カ月後の 2007 年 11 月には、12.0mm 以上～12.5mm 未満の割合が最も多く、範囲は 1.5mm 以上～19.0mm 未満とさらにバラツキが広がり、最大は 18.5mm で漁獲サイズになんとか達しています。

ここでは湖水をかけ流して飼育しているため、天然で発生したシジミの浮遊幼生が混入する可能性があり、全てが 2004 年 6 月産卵群と断言できないのですが、2004 年 10 月の測定で 2004 年に生まれた群が 0.5mm 未満で確認されているのに対して 2005 年以降の測定では 0.5mm 未満の稚貝は確認されていないことから、天然由来のシジミの影響は少なかったと考えています。

この結果から、シジミは 1 年 4 カ月後には、殻長の差が 10 倍を超えており成長の個体差が大きいことがわかりました。このことは、たとえば同じ殻長 5mm の稚貝であっても、少なくとも 1 歳、2 歳、3 歳の可能性があり、大きさだけでは年齢を推定するのが難しい種であることを意味しています。天然でもこれと同じ成長を示すとはかぎりませんが。



2004 年 6 月下旬産卵群ヤマトシジミ殻長組成

（上から 4 カ月後、1 年 4 カ月後、2 年 5 カ月後、3 年 5 カ月後）